

羅納德·李田等次輯修

無機化學全書

IX-1

稀土與中間

Sc, Y, La, Ce, Pr, Nd, Sm, Eu,

Gd, Th, Dy, Ho, Er, Tm, Yb, Lu

理學博士 柴田雄次 監修

無機化學全書

IX-1

稀土類元素

Sc, Y, La, Ce, Pr, Nd,
61, Sm, Eu, Gd, Tb, Dy,
Ho, Er, Tu, Yb, Lu

丸善出版株式會社

理學博士 柴田雄次 監修

無機化學全書

IX-2

稀土類元素

Sc, Y, La, Ce, Pr, Nd,
61, Sm, Eu, Gd, Tb, Dy,
Ho, Er, Tu, Yb, Lu

1949

丸善出版株式會社

無機化學全書 IX-1 · 円 800.00

昭和 23 年 10 月 1 日 印 刷 行
昭和 23 年 10 月 5 日 発 行

著作権所有



著作権者 柴田 雄次
發行者 東京都中央區日本橋江戸橋 2 丁目 9 番地
丸善出版株式會社
代表者 金原金二
印刷所 東京都中央區日本橋室町 4 丁目 5 番地
合資會社 真興社
印刷者 福田 三郎

發行所

東京都中央區日本橋江戸橋 2 丁目 9 番地
丸善出版株式會社
日本出版協會會員番號 A 113002



弊社は捺印貼紙等で定価を改変致しません

自然科學書協會員

製本・丸善製本所

執筆者（五十音順）

科學研究所主任研究員	理學博士 飯高一郎
東京農業教育專門學校教授	大八木義彥
東京大學理學部助手	河合貞吉
東京大學教授	理學博士 木村健二郎
東京大學助教授	理學博士 黑田和夫
東京工業試驗所技師	中井敏夫
東京文理科大學助教授	濱口博
科學研究所所員	古畠威
	編輯者 木村健二郎

凡 例

1. 本書（第9巻第1分冊）には稀土類元素の歴史から化學的性質の章までを集載し、稀土類元素の化合物は別に第2分冊にまとめることとした。これは全く印刷並びに出版上の都合に基くものである。
2. 海外文献は太平洋戦争勃発前までに入手し得たものを調査した。本書の執筆が主として1945年秋から1947年春にかけてなされた爲に戦時中並びに戦後の海外文献は充分にこれを参考することができなかつた。
3. 用語は主として「化學語彙」及び「工業化學語彙」によつた。かなづかひは整備の時がなかつたので今回は舊によつた。
4. 雑誌・略名表は第9巻第2分冊の巻末に附録として添へる。
5. 各執筆者間の連絡には相當注意を拂つたけれど、稀土類元素の性質上各章の記載に止むを得ざる重複を生じたが、これは敢へてそのままとした。

序

こゝに無機化學全書の第二回の出版としてその第9卷稀土類元素篇を世に送ることとなつた。顧みれば本書の執筆は1943年に始められたのであるが、戦争のために進行が遅れ、本格的な執筆は1945年秋から1947年春にかけて行はれた。わが國はじまして以來の苦難に満ちた時代に執筆を繼續された各位の御骨折は想像に餘るものがあつた。しかしかゝる情勢にもかかはらず監修者柴田雄次先生の御激励と執筆者各位の御努力の結果こゝに全書の名にふさはしき内容の一巻をまとめあげることができたのは編輯者にとってこの上ない喜びである。たゞ各位の完璧の稿をとりまとめた編輯者の未熟のため恐らく幾多の不備の點を生じたことを考へ深く御詫を申し上げ、又讀者の叱正を仰ぐ次第である。

終りに監修者並びに執筆者各位に對し心より御禮を申し上げる。又この困難多き時代に全書出版の完成に不變の努力を拂はれる丸善出版株式會社に感謝の意を表する。

昭和23年6月

編輯者 木村健二郎

ESCA

(2K610/25) 2K610/17
序 言

本全書叢刊の企画の初め面倒はれたのは去る昭和廿七年の事であつた。其後準備は戦時中にも漸らす着を進められ執筆諸學者、著述者等は丸善出版株式會社とは苛烈な空襲にもめげずあらゆる苦難と躊躇とを忍んでその第一冊即ち本全書第三巻「ロゲン篇」が世に現れたのは昭和二十三年暮秋の頃で終戦後現はれた科學書としては著述早い方であつた。海ならずかなる難時局下にその内容體裁とも本完璧と號する所はあれどもこれだけのものに於て世界學界に提供し得る所とは金書當初に於ける同人の抱負に背かぬ所のと監修者ともて私から喜び是多大の犠牲を忍んで之を實現せしめられた出版書、丸善出版株式會社にも深く感謝する處であつた。

本全書刊行の主旨に關しては該「ロゲン篇」の巻頭に於て既に私の述べた處であるから茲に之を繰り返す餘を避けたが而後次第に叢刊せられる各巻に就て學界の内容批判と利用價値の實際とは謙虚に之を期待するものである。唯現時外國書の輸入の杜絕、新文獻の入手難、執筆諸學者の多忙等の惡條件の下豫定の刊行が次第に遅延しつゝあることは學界の待望に答へ得ぬ憾の多大であることを感じて同人自責の念に堪えぬ次第である。然し茲に第二回として世に送る第九巻稀土類元素篇を手にせられる讀者はこれが如何に充實した内容を有する龍然たる大冊であるかを目睹せられ恐らく發刊の遅延が必ずしも同人の怠慢に出づるものでなかつた事を諒せらるゝ事と思ふ。稀土類元素の著書に就てはこれだけ徹底した大部のものは從來世界何れの國にも存在しなかつたことを附言して序言に代へる次第である。

昭和23年6月

監修者識

04528

稀土類元素總論

週期	0	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
1		¹ H							
2	² He	³ Li	⁴ Be	⁵ B	⁶ C	⁷ N	⁸ O	⁹ F	
3	¹⁰ Ne	¹¹ Na	¹² Mg	¹³ Al	¹⁴ Si	¹⁵ P	¹⁶ S	¹⁷ Cl	
4	¹⁸ A	¹⁹ K	²⁰ Ca	²¹ Sc	²² Ti	²³ V	²⁴ Cr	²⁵ Mn	²⁶ Fe ²⁷ Co ²⁸ Ni
5	³⁶ Kr	³⁷ Rb	³⁸ Sr	³⁹ Y	⁴⁰ Zr	⁴¹ Nb	⁴² Mo	⁴³ Tc	⁴⁴ Ru ⁴⁵ Rh ⁴⁶ Pd
6	⁵⁴ Xe	⁵⁵ Cs	⁵⁶ Ba	⁵⁷⁻⁷¹ 稀土類元素	⁷² Hf	⁷³ Ta	⁷⁴ W	⁷⁵ Re	⁷⁶ Os ⁷⁷ Ir ⁷⁸ Pt
7	⁸⁶ Rn	⁸⁷ Fr	⁸⁸ Ra	⁸⁹ Ac	⁹⁰ Th	⁹¹ Pa	⁹² U		

稀土類元素

⁵⁷ La	⁵⁸ Ce	⁵⁹ Pr	⁶⁰ Nd	⁶¹ —	⁶² Sm	⁶³ Eu	⁶⁴ Gd	⁶⁵ Tb	⁶⁶ Dy	⁶⁷ Ho	⁶⁸ Er	⁶⁹ Tu	⁷⁰ Yb	⁷¹ Lu
------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

超ウラン元素

⁹³ Np	⁹⁴ Pu	⁹⁵ Am	⁹⁶ Cm
------------------	------------------	------------------	------------------

(2k610/25)

序 言

2k610/17

本全書発刊の企畫の初めで行はれたのは去る昭和十七年の事である。其後準備は戦時中にも拘らず着々進められ執筆諸専門學者・幹事会・丸善出版株式會社とは奇縁な空運にもめぐわあらゆる苦難を経て忍んでその第一冊即ち本全書第三巻ハロゲン篇が世に現れたのは昭和二十一年晚秋の頃で終戦後現はれた科學書としては驚異的といふであつた。さればかくも難時局下にその内容體裁と新鋭宏璧と殊群はれやうもこれだけのもじめ科学學界に提供し得たものは企畫當初に於ける同人の抱負は背かなものと監修者として私に於ける多大の犠牲を忍んで本を實現せしめられた出版者・丸善出版株式會社様を深く感謝する所である。(本件は改めて)

本全書刊行の主旨に關するは該ハロゲン篇の卷頭に於て既に私の述べた通りであるから茲に省略する。又著者を避けながら向後次第に該書各卷は就て學界の內容批判や利用価値の實際とは謙虚に之を期待するものである。唯現時外國書の輸入の枯竭、新文獻の入手難、執筆諸學者の多忙等の惡條件の下豫定の刊行が次第に遅延しつゝあることは學界の待望に答へ得ぬ憾の多大であることを感じて同人自責の念に堪えぬ次第である。然し茲に第二回として世に送る第九卷稀土類元素篇を手にせられる讀者はこれが如何に充實した内容を有する龐然たる大冊であるかを目睹せられ恐らく發刊の遅延が必ずしも同人の怠慢に出づるものでなかつた事を諒せらるゝ事と思ふ。稀土類元素の著書に就てはこれだけ徹底した大部のものは從來世界何れの國にも存在しなかつたことを附言して序言に代へる次第である。

昭和 23 年 6 月

監修者 謹

04529

序一

さういは無機化學全書の第二回の出版としてその第9巻稀土類元素篇を世に送ることとなつた。磨みれば本書の執筆は1943年に始められたのであるが、戦争のために進行が遅れ、本格的な執筆は1945年秋から1947年春にかけて行はれた。わが國はじまつて以來の苦難に満ちた時代に執筆を繼續された各位の御骨折は想像に餘るものがあつた。しかしむしろ情勢はむかかはらず監修者柴田雄次先生の御激励と執筆者各位の御努力の結果こゝに全書の名にふさはしき内容の一巻をまとめあげることができたのは編輯者にどうてこの上ない喜びである。たゞ各位の完璧の稿をとりまとめた編輯者の未熟のため恐らく幾多の不備の點を生じたことを考へ深く御詫を申し上げ、又讀者の叱正を仰ぐ次第である。

終りに監修者並びに執筆者各位に對し心より御禮を申し上げる。又この困難多き時代に全書出版の完成は不變の努力を拂はれる光善出版株式會社に感謝の意を表する。

昭和23年6月 著者 木村 健二郎

編輯者 木村 健二郎

此の序文を最初にやめて、前略。此略文は本序文の後半部である。前略文の本文は、『序文』の本文と重複する部分がある。

著者 木村 健二郎

escan

凡　例

1. 本書(第9巻第2分冊)には稀土類元素の化合物から用途の章までを集載し、第1分冊及び第2分冊に對する索引を附した。これにて稀土類元素の巻は完成した。
2. 海外文獻は太平洋戦争勃發前までに入手し得たものを調査した。本書の執筆が主として1945年秋から1947年春にかけてなされた爲に戦時中並びに戦後の海外文獻は充分にこれを参照することができなかつた。
3. 用語は主として「化學語彙」及び「工業化學語彙」によつた。かなづかひは整備の時がなかつたので今回は舊によつた。
4. 各執筆者間の連絡には相當注意を拂つたけれど、稀土類元素の性質上各章の記載に止むを得ざる重複を生じたが、これは敢へてそのままとした。

稀土類元素化合物

譯者：胡成志

編者：胡成志



周期	0	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
1		¹ H							
2	³ He	³ Li			⁶ C			⁹ F	
3	¹⁰ Ne	¹¹ Na	¹² Mg	¹³ Al	¹⁴ Si	¹⁵ P	¹⁶ S	¹⁷ Cl	
4	¹⁸ A	¹⁹ K	²⁰ Ca	²¹ Sc	²² Ti	²³ V	²⁴ Cr	²⁵ Mn	²⁶ Fe ²⁷ Co ²⁸ Ni
5	³⁶ Kr	³⁷ Rb	³⁸ Sr	³⁹ Y	⁴⁰ Zr	⁴¹ Nb	⁴² Mo	⁴³ Tc	⁴⁴ Ru ⁴⁵ Rh ⁴⁶ Pd
6	⁵⁴ Xe	⁵⁵ Cs	⁵⁶ Ba	⁵⁷⁻⁷¹ 稀土類元素	⁷² Hf	⁷³ Ta	⁷⁴ W	⁷⁵ Re	⁷⁶ Os ⁷⁷ Ir ⁷⁸ Pt
7	⁸⁶ Rn	⁸⁷ Fr	⁸⁸ Ra	⁸⁹ Ac	⁹⁰ Th	⁹¹ Pa	⁹² U		

稀土類元素

⁵⁷ La	⁵⁸ Ce	⁵⁹ Pr	⁶⁰ Nd	⁶¹ —	⁶² Sm	⁶³ Eu	⁶⁴ Gd	⁶⁵ Tb	⁶⁶ Dy	⁶⁷ Ho	⁶⁸ Er	⁶⁹ Tu	⁷⁰ Yb	⁷¹ Lu
------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

超ウラン元素

⁹³ Np	⁹⁴ Pu	⁹⁵ Am	⁹⁶ Cm
------------------	------------------	------------------	------------------

第 100 号 第 1 部 資源・資源開発編

目 次	
第一編 稀土類元素總論	著者: 木村健二郎
第一章 歴 史	著者: 木村健二郎
I. 稀土類の最初の發見(1794 年)から 1843 年まで	著者: 木村健二郎
II. 1844 年から 1870 年まで	著者: 木村健二郎
III. 1871 年から 1880 年まで	著者: 木村健二郎
IV. 1881 年から 1900 年まで	著者: 木村健二郎
V. 二十世紀	著者: 木村健二郎
VI. 稀土類元素發見の歴史概観	著者: 木村健二郎
第二章 地球化學及び存在	著者: 渡口 博
I. 總 説	著者: 渡口 博
II. 各 論	著者: 渡口 博
III. 稀土類元素礦物	著者: 渡口 博
第三章 分析化學	著者: 黒田 和夫
I. 稀土類元素の行動概要	著者: 黒田 和夫
II. 定性分析	著者: 黒田 和夫
III. 定量分析	著者: 黒田 和夫
IV. 分光分析	著者: 黒田 和夫
V. X 線分光分析	著者: 黒田 和夫
VI. 特殊分析法	著者: 黒田 和夫
VII. 分析例 稀土類元素含有礦物分析法	著者: 黒田 和夫
第四章 製 法	著者: 中井 敏夫
I. 礦物より稀土類元素の抽出	著者: 中井 敏夫
II. 稀土類元素の分離法	著者: 中井 敏夫
III. 稀土類元素鹽類の分離精製法	著者: 中井 敏夫
IV. 稀土類金屬の製法	著者: 中井 敏夫

第五章 物理的性質	古烟 威	437
I. 原子		437
II. 電質		461
III. 磁學的性質	無機化學全書編成一覽表	
IV. 力學的性質		462
V. 热學的性質		464
VI. 光學的性質		465
VII. 磁氣的性質		480
VIII. 電氣的性質		481
第六章 化學的性質	古烟 威	483
I. 電氣化學的性質		483
II. 化學的性質		486
元素週期表	卷頭 無機化學全書編成一覽表	卷末

〔以下第九卷第二分冊に所載〕

第七章 化合物	中井敏夫 河合貞吉 古烟威 大八木義彦
----------------	------------------------

A. ランタンの化合物	I. ディスプロシウムの化合物
B. セリウムの化合物	J. ホルミウムの化合物
C. プラセオヂムの化合物	K. エルビウムの化合物
D. ネオヂムの化合物	L. ツリウムの化合物
E. サマリウムの化合物	M. イッテルビウムの化合物
F. ユーロピウムの化合物	N. ルテシウムの化合物
G. ガドリニウムの化合物	O. スカンヂウムの化合物
H. テルビウムの化合物	P. イットリウムの化合物

第八章 合金	飯高一郎
第九章 用途	中井敏夫

索引